

校長室だより

☆教育目標☆

自ら考え行動し、進んで行動できる生徒の育成
＜生活心得＞ 時を守り 場を清め 礼を正す

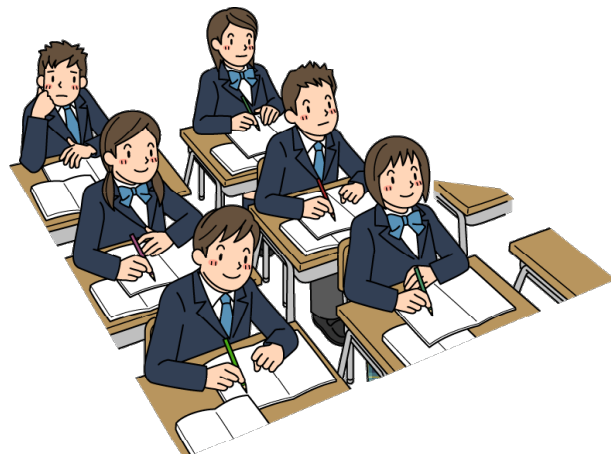
令和元年6月14日発行 No.5

富岡市立富岡中学校 校長 中村 喜雄

☆☆過去と他人は変えられない、未来と自分を変えられる・・・☆☆

以前、「中高生の8割近くが、もっと勉強しておけばよかったと思っている」という調査結果を耳にし、その時、「過去と他人は変えられない」という言葉がすぐに頭に浮かびました。

人がこれまで生きてきた過去というのは、どんなに悔やんでも悩んでも決して変えることはできません。「あの時、あんな事をしなければよかった」「あの時、ああしておけば今更こんな苦勞をしなくて済んだのに・・・」等、人は過去の失敗を悔やんだり、くよくよしたりしますが、決してやり直しは



できません。過去は変えられないのです。同様に、「自分でこうしてほしい」と思っている、自分の意思では他人を変えることはできません。自分の意思や考えをもつ人間という生き物は、本来、自分の行動は自分で選択します。たとえ、力づくでやらされたとしても、心の中まで変えられることはありません。仮に、教師や親の働きかけがあって、子どもがとても勉強するようになったとしましょう。でも、それは、教師や親の働きかけという刺激を受けた子どもが、その必要性を感じ、自らが正しく判断し自分自身でそのように変えていったということなのです。

さて、「過去と他人は変えられない」の裏返しとして「未来と自分を変えられる」という言葉があります。この言葉のとおり、確かに今の自分は変えられると思います。ただ、自分のことであっても、「生・死・病・老」については、どう努力しても変えることは不可能です。自分で変えられるのは「今の自分の考え方、心の持ち方」と言えます。つまり、何かする時に「その気になるか、やる気を出せるか」という自分の意思の問題なのです。また、人はとにかく、自分ができないことを他人のせいにしたがります。その方が楽だからでしょうか。しかし、そんな事をしていても何にもなりません。

勉強を例にとれば、勉強するのは自分です。自分の脳を鍛えるのは自分。勉強しないのは自分で決めたこと。勉強しなくて後で後悔しても、その責任は自分以外の誰のせいでもありません。どんな結果になろうとも、他人のせいにはできないのです。しかし、このことを自覚し意識している人は意外と少ないのではないのでしょうか。自分は自分以外の誰にも変えられない。いくら他から何か言われても、自分がその気にならなければ自分を変えられない。自分は、自分を変えることができるただ一人の人間であるということを生徒たちが理解し、素晴らしい未来を切り拓いていってほしいと考えます。

そのために、一步先の自分を目指し、今の自分より成長した自分を想像し、勉強や運動に日々努力・成長してほしいと思います。自分の考えが変わることで、未来も大きく変わっていくことになります。

